



タイ 遠田 泰久隊員(家畜飼育)
活動先の農業高等専門学校(アグアカデミー)の学生たちと



道産子青年海外協力隊

青年海外協力隊の活動がはじまり今年で40年が過ぎました。この40年間、約1,600人の道産子隊員1人ひとりが、開発途上国の現地の人々とともに暮らし、ともに働き、そして経験や技術、専門知識を伝えてきました。そして、今、現在も約160名の道産子が青年海外協力隊員として開発途上国の現場で活動しています。

現地の人々とあるときは笑い、あるときは悲しみ、そしてあるときは反目しながら感じたこと、本特集ではこれらを「活動している国の好きなのところ」と「これまでの活動で一番印象に残ること」として活動中の隊員に記してもらいました。



青年海外協力隊発足40周年にむけて

青年海外協力隊が40歳とすれば、北海道OB会は31歳になります。OB会も当初10数人程度の集まりでしたが、現在は道内に1,200人あまりのOB、OGが滞在しており、JICA研修員との交流、JICA研修事業の受入等、協力隊での経験を活かし、開発途上国の方々との交流を続けています。

協力隊時代は隊員1人と現地の人々の係わりが全てでした。帰国後についても、隊員1人ひとりが協力隊の経験を活かした

活動をすることが、OB会の活動のベースです。隊員が現地で肌で感じたことを道民の方々と共有できるよう、これからもOB会として活動をしていく予定です。

また、これから派遣される隊員の方々には、「現地の人々とのコミュニケーション、これが全て」との言葉をかみしめ、精力的に活動されることを希望します。

青年海外協力隊北海道OB会 会長 梅澤 康